

## むつ市が未来を担う若者たちのために 取り組んでいること

例えば

### 弘前大学・青森中央学院大学 むつサテライトキャンパス設置

大学のないむつ市に「ハコ（キャンパス）」を持たない大学、サテライトキャンパスとして設置。むつ市内で大学レベルの講座が開かれ、また地域を学習の場ととらえ、両大学から「滞在型学習」として大勢の学生がむつ市を訪れています。

まちに人の流れができ、地域で活躍できる人を育て、新たな産業の創出も期待できます。

例えば

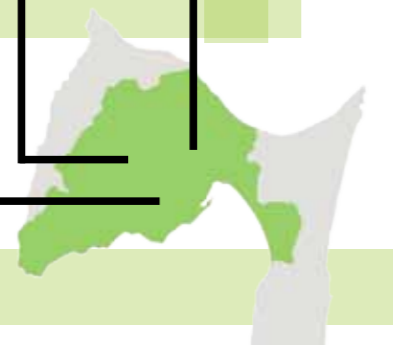
### まさかり高校 夏期講習会 医学部進学・特進コース

下北の高校生を対象に、下北から医学部や難関大学への進学を目指す高校生を市が支援する特別講習。大手予備校の講師を招き、3日間の集中講義を実施。学校とは違う目線で、高校生を支援しています。

例えば

### 中学生夢はぐくむ体験入学

社会問題・社会福祉・地域医療などに関心があり、学習意欲に富む中学生を実際に大学に派遣し、自らの将来像に対する意識を確立させ、むつ市の未来を担う人材を育成します。



## ひとつひとつの取組みは 「私がむつで生きる理由」 につながります

### むつ市に にぎわいを むつサテライトキャンパス大学祭 下北文化会館

むつサテライトキャンパスの目的である「にぎわいの創出」のため、弘前・青森中央学院大学の学生が、大学での活動をむつ市で発表し、市民のみならずと交流。

この日、多くの学生を呼び込み、むつ市で初めての「大学祭」が開催されます!! お楽しみに!

11月11日(土) 午後3時~5時  
12日(日) 午前10時~午後0時30分

ストリートダンス・お茶会・津軽三味線  
模写・保健室  
ねぶた囃子方・軽音楽・アンサンブル



1・2

むつサテライトキャンパスでの滞在型学習の様子。実際に学生がむつ市に滞在し、地域や企業の取組みを学ぶ。

3 中学生夢はぐくむ体験入学の様子。実際に大学の雰囲気を感じ、自分の将来像を直に描く。

4 まさかり高校夏期講習会の様子。学びを求める生徒たちの目は真剣だ。



# つくる 魅力あるまちを

私たちの暮らすこのむつ下北には、高等学校を卒業した後に進学できる高等教育機関がありません。多くの若者は、進学や就職を機にむつ市を離れます。いま私たちがやるべきことは、むつ市を離れた若者たちが「将来は地元で働きたい」、そしてむつ市を知らなかった若者たちが「将来はむつ市に住んで働きたい」と思うまちをつくることです。

家族そして地域のみならずには、子どもたちが将来戻ってきたいまちを一緒につくっていただきたい。企業・経営者のみなさんには、自分たちの魅力ある仕事を若者たちにもっともっと伝えていただきたい。若者に魅力あるまちづくり。それが私たちにできること。私たちがやらなければならないことなのです。

八戸市南郷（旧三戸郡南郷村）で生まれ、弘前大学農学生命科学部へ。この夏、共育型企業インターンシップに参加し(有)サンマモルワイナリーにて実習。  
将来はむつ市でワインの醸造を学び、働きたいと願う春日さんに迫ります。

弘前大学農学生命科学部

春日一心さん



## 私がむつで働きたくなった理由



春日さんがこの夏インターンシップを経験した(有)サンマモルワイナリーのぶどう畑

「僕が生まれ育った南郷は、たばこの葉の栽培がおもな産業でしたが、近年では衰退。八戸地方は、まぶどう栽培とワインの醸造を産業とする動きが高まっています。そんな中、ひよんなことからむつ市ではすでにワインを造っている企業があることを知りました。」  
春日さんは、大学の授業で紹介された弘前大学の取組みに強く関心を持ったといいます。  
それが青森COC+。県内の大学生が県内で就職し、県内で暮らすこと。それは地方の人口減少を抑え、地域の活力につながります。

地元を救うヒントは  
むつにあった

### そんな若者を 育てる第一歩 青森COC+推進機構との連携

今日最大の課題である「人口減少克服」のため、県内の大学・高等専門学校計10校と県・青森市・弘前市・八戸市・むつ市の4市、100を超える県内企業・団体・NPO等が一丸となって「オール青森」ネットワークを形成し、「地域創生人材」の育成と、学生の地元への就職や起業支援、雇用創出に取り組む青森COC+（プラス）。

学生が実際に企業で実習し、企業は学生に自分たちの魅力を伝える。若者と地域・企業をつなぐことで、さまざまな将来像への気づきを与え、「むつで働きたい」と思う人材を育てます。



この夏、春日さんは共育型インターンシップという取組みのもと、(有)サンマモルワイナリーで1か月間、新しいワインオーナー制度の構築に取り組みました。  
社長の北村さんと関わっていくなかで、ワインの醸造をもっと学んでみたいという思いに至り、さらには自分のこの思いが、地元を救うことにもつながるかもしれないと感じました。

「インターンシップに参加して感じたのは、企業側の熱意でした。実は、学生の中には地元や県内で働きたいという人も多いと思います。でも、地域にどんな企業があるのかすら判らないケースも多い。企業のアピールがたくさんあったら、学生がもっと地域に根ざすチャンスが生まれるんじゃないかと思っています。」

企業の熱意が伝わった



1 下北ワイン畑オーナー制度を構築し5件のオーナーを獲得するという目標に対し、40件もの申込みを獲得した。  
2 春日さんの成果はCOC+推進機構が発行する広報誌「SCENE」でも取り上げられた。